

総合交通メールマガジン

第67号

平成26年3月14日発行

発行元：国土交通省 総合政策局

総務課（総合交通体系グループ）

目次

総合交通メールマガジンとは

Topics

- ◆地域と一体となって進める地域交通確保の取り組みについて
(和歌山電鐵株式会社)
- ◆英国政府における交通分野のオープンデータの取り組みについて
(海外現地調査報告)
(国土交通省 総合政策局 総務課)

総合交通体系グループだより

- ◆東京都（狛江市）地区ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業
(あいとぴあレインボー推進協議会)
- ◆静岡県（下田市）地区ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業
(下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会)
- ◆『地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』～ いつでもご質問に対応致します。～
(国土交通省 総合政策局 総務課)

Infomation

- ◆総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！
- ◆地域の取り組み 及び イベント案内 募集！！
- ◆～受付窓口の変更がありましたらご連絡ください～



総合交通メールマガジンとは

総合交通メールマガジンは、交通基盤整備や地域交通に関する最新の取り組みを幅広く紹介することを目的として、月一回を目処に発行しているメールマガジンであり、主な購読者は都道府県、市町村等の交通施策担当者となっております。

当メールマガジンで紹介させていただく記事については、執筆者が任意の協力のもとで作成したものであり、成果を広く共有する観点から、二次的利用も可能な形式で掲載しております。

《総合交通メールマガジンのバックナンバーはこちら↓》

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html



Topics

◆地域と一体となって進める地域交通確保の取り組みについて

(和歌山電鐵株式会社)

和歌山電鐵株式会社は、和歌山駅と紀の川市を結ぶ唯一の公共交通機関である貴志川線を運行しています。平成18年4月に、南海電気鉄道が廃止を表明した南海貴志川線(当時)を継承し、地域の熱意、行政による支援を受けて、地方鉄道の再生を実践しています。

また、再生後も沿線の機運を維持するため、地域や行政、交通事業者で構成する「貴志川線運営委員会」を設置し、活性化に向けた様々な施策を展開しています。

さらに、“生活路線”、“観光路線”双方の機能を強化するため、パーク・アンド・ライド／サイクル・アンド・ライド、リニューアル電車(いちご電車、おもちゃ電車、たま電車)の導入等、様々な取り組みを実施しています。

《記事はこちらから↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1403wakaden.pdf>

《和歌山電鐵株式会社のウェブサイトはこちらから↓》

<http://www.wakayama-dentetsu.co.jp/>

◆英国政府における交通分野のオープンデータの取り組みについて(海外現地調査報告)

(国土交通省 総合政策局 総務課)

国土交通省では、地域におけるモビリティ(移動の利便性)の確保に向けた移動体に着





目した取り組みの一環として、ICT等を活用した歩行者移動支援サービスの普及・展開を推進しています。歩行者移動支援サービスについては、「ICTを活用した歩行者の移動支援に関する勉強会」（座長：坂村健 東京大学大学院情報学環教授）においても、Gov 2.0^{※1}の理念に基づいて、歩行空間ネットワークデータ^{※2}をオープンデータにより整備することの重要性が指摘されています。

このため、今年1月、海外におけるオープンデータの現状、取り組み等を把握するため、英国において海外現地調査を実施しましたので、結果の概要を報告致します。

なお、お問い合わせについては、以下の連絡先までお願いします。

E-mail : soukou@mlit.go.jp

※1 Gov2.0

米国のメディア企業オライリー・メディアの創設者であるティム・オライリーが提唱した概念であり、情報流通のために政府がプラットフォームとなる（government as a platform）ことを基本理念とする。

※2 歩行空間ネットワークデータ

歩行経路を示す「リンク」とリンクの結節点である「ノード」によって構成されたデータ群。リンクには階段や段差、道幅等の経路情報が付与され、ノードには緯度経度や高さ等が属性情報として登録されている。

《記事はこちらから↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1403opendata.pdf>

《英国政府内閣府のウェブサイトはこちらから↓》

<https://www.gov.uk/government/organisations/cabinet-office>

《英国政府交通省のウェブサイトはこちらから↓》

<https://www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport>

《ロンドン市交通局のウェブサイトはこちらから↓》

<http://www.tfl.gov.uk/>



総合交通体系グループだより

◆東京都（狛江市）地区ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業

（あいとぴあレインボー推進協議会）

東京都狛江市は、高齢化が急速に進行している自治体であり、「人がやさしい、人にやさしい、あいとぴあ狛江」を福祉の基本理念として、すべての市民が地域の中で豊かな生活





が過ごせるまちづくりを目指して取り組んでいます。

こうした背景を踏まえ、あいとぴあレインボー推進協議会は、国土交通省の「平成 25 年度ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」実施箇所の選定を受け、高齢者、車いすやベビーカー利用者に対するバリアフリー情報、「まち」の旬な情報（イベント情報、生活に役立つお得情報等）、防災情報（避難所、AED設置場所）を提供するため、歩行者移動支援サービス（「ココシルこまえ」）の導入に取り組んでいます。

《記事はこちら↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1403komae.pdf>

《「ココシルこまえ」のウェブサイトはこちら↓》

<http://home.komae.kokosil.net/ja/>

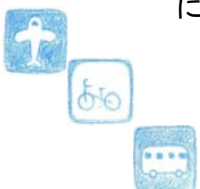
◆静岡県（下田市）地区ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業

（下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会）

静岡県下田市は、伊豆半島の先端に位置し、ペリー来航をきっかけに近代史の舞台となった地です。観光産業は市の基幹産業であるものの、海水浴と蓮台寺温泉の宿泊客が中心となっており、オフシーズンは了仙寺や宝福寺などの歴史舞台となった寺社への立ち寄り程度にとどまる限定的なバスツアー客が大半であり、年間を通じた観光客誘致が課題となっています。2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを見据え、ユニバーサルツーリズムの取り組みを開始した静岡県と歩調を合わせ、高齢者や障がい者も楽しめる観光地づくりに取り組む必要性が認識されています。

一方、ユニバーサルな観光地づくりのため、車いす利用者やベビーカー利用者でもバリアを回避しながらまち歩きを楽しめる仕組みづくりが課題となっています。そこで、市の大きな観光資源である「街並みと商店の魅力」を活かした、「誰もが歩いて楽しめる観光都市」の実現に向けて、下田市観光協会、交通機関や観光地域づくりに取り組む NPO 等が連携して「下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会（代表団体：NPO 伊豆のせんたんコンシェルジュ）」を発足しました。

こうした背景を踏まえ、下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会では、国土交通省の「平成 25 年度ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」実施箇所の選定を受け、下田市を訪れる外国人観光客に対する、言語での情報コンテンツや、車いす利用者に対してバリアを回避した観光ルートの表示・案内を行い、より安心に、より便利に移動できるよう、歩行者移動支援サービス（以下、「下田に行こう」という）の導入に取





り組んでいます。

《記事はこちら↓》

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1403shimoda.pdf>

◆『地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』～ いつでもご質問に対応致します。～

(国土交通省 総合政策局 総務課)

国土交通省 総合政策局 総務課(総合交通体系)では、『地域のモビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～』を発売しています。『地域のモビリティ確保の知恵袋2012 ～災害時も考慮した「転ばぬ先の杖」～』を地域における事前の取り組みに役立てて頂くために、東日本大震災後の災害に備えた取り組み事例等を調査し、平常時から災害時に備えた地域における取り組みの実践に資する工夫・ノウハウをとりまとめたものです。

ご質問など御座いましたら、いつでも対応致します。

《「地域モビリティ確保の知恵袋2013 ～災害時のモビリティ確保に向けた取り組みのススメ～」はこちらから↓》

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_tk_000038.html



Information

◆総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

総合交通メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえて内容を充実させていきたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなど、どのようなことでも構いませんので、ご意見等頂けると幸いです。様式、送付先については、下記URLをご利用下さい。

URL: <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/iken-merumaga.xls>

引き続き、メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方については、送信先の変更を申請下さい。なお、変更内容については、以下までお願いします。

E-mail: soukou@mlit.go.jp

◆地域の取り組み 及び イベント案内 募集！！

当課では、情報提供頂いた取り組みをメールマガジンで紹介することにより、各地域で





ノウハウ等の情報共有・情報交換ができればと考えており、総合的な交通施策の取り組みについて情報提供頂ける自治体等を募集しています。自薦・他薦は問いませんので、お気軽にご連絡下さい。更に、イベント案内について、主催者でも結構ですし、耳より情報でも結構です。勉強会や講演会、セミナー等ご紹介頂ければ、当メールマガジンにて案内をさせていただきます。

(情報提供はこちらまで soukou@mlit.go.jp)

【情報提供頂く内容】

例えば、

- ・ 低炭素社会の実現に向けモビリティのあり方を見直す取り組み（交通の再編等）
- ・ 交通の改善により地域活性化を図る取り組み など

※ これまでに、推薦頂いたものも含めて76件の取り組みを紹介させていただきました。

バックナンバー一覧：

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html

◆受付窓口の変更がありましたらご連絡ください。

人事異動等により、メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方については、送信先の変更をご連絡願います。なお、他部署でも楽しんで頂けるよう努めて参りますので、引き続きのご購読も歓迎いたします。（連絡先の追加でも結構です）

なお、変更内容については、下記連絡先までお願いします。

E-mail：soukou@mlit.go.jp

【問い合わせ先】

国土交通省 総合政策局 総務課（総合交通体系グループ） 中川 敏正

TEL：03-5253-8111（内線53-113）

FAX：03-5253-1675

E-mail：soukou@mlit.go.jp

URL：<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/index.html>

